

五十周年記念誌 合気道明心会

—五十年の歩みと、これから—



目次

Table of contents

創立者・代表者	2
第一章 合気道自由が丘道場	4
写真集（自由が丘道場）	5
自由が丘道場での亀井先生、池田先生との思い出 小堀 秋	6
自由が丘道場での亀井先生、池田先生との思い出 岡田 康太郎	7
第二章 合気道明心会創立 -上板橋-	8
写真集（上板橋時代）	9
明心会創立について 鳥海 昭兵	10
池田昌富先生からの伝言 中根 浩之	11
第三章 池田昌富師範 欧州での活動	12
池田昌富先生とのスイスでの思い出 菅原 美喜子	13
池田昌富先生の思い出 ハンスリュディ ネフ	14
写真集（池田昌富師範）	16
第四章 入間市での活動開始	18
入間市での稽古開始 野村 良男	19
入間市武道館で稽古を始めた頃 吉野 明男	20
志木合気会における亀井先生との思い出 三輪 明	21
第五章 池田昌富師範の帰国	22
写真集（日欧合同稽古）	23
池田昌富先生の教え 清水 拓市	26
池田昌富先生の思い出 戸澤 克高	27
写真集（2010年代）	28
第六章 新たなる活動	30
実践合気道 福田 友城	31
写真集（2020年代）	32
少年部	34
明心会50周年寄稿 篠崎 広志	36
会員名簿	37
第七章 欧州と繋がる明心会	38
ヨーロッパ稽古旅 鳥海 陽子	39
合気道明心会50周年記念に寄せて マリオ チェルニー	40
合気道明心会50周年記念に寄せて ロマン ダニエク	42
最終章 代表者より	44
謙虚さとは 佐々木 淳一	45
編集後記 松田 裕一	46

創 立 者

The founder



池 田 昌 富

1940年、東京都に生まれる。1961年に産経道場に入門し、1962年より合気道自由が丘道場にて多田宏先生に師事する。1965年から5年間イタリアに滞在して指導に当たり、帰国後は獨協高校で教鞭を執った。

1976年、合気道明心会を創立するも、同年スイスへ渡り、スイス合気会 (ACSA) 技術監督に就任。その後、チェコやスロバキアなど周辺国でも広く指導を行った。

合気道七段、ほか柔道、相撲、剣術に通じ、2021年6月、81歳で逝去した。

代表者

The Representative



亀井 格一

1938年、東京都に生まれる。1961年より合気道自由が丘道場に入門し、多田宏先生に師事。多田塾の高段者として活躍する。

1976年には池田昌富師範と共に、東京都板橋区に合気道明心会を発足。現在は埼玉県入間市を拠点に、50年にわたり指導を行い、後進の育成や合気道の普及に尽力している。

合気道八段。

第1章 合気道自由が丘道場

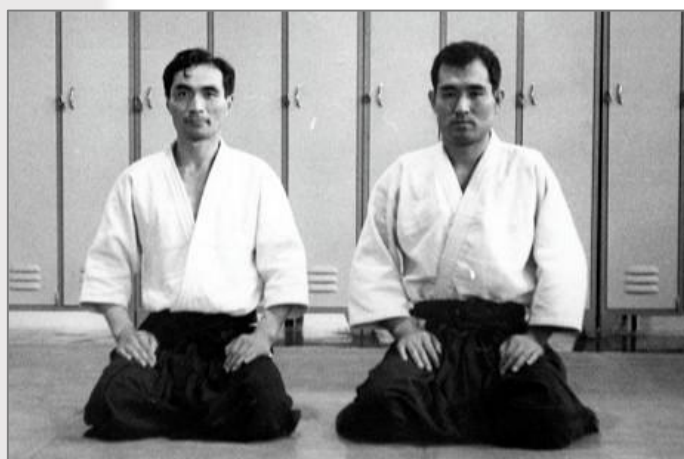
1961 年～1976 年

Aikido jiyugaoka dojo

合気道明心会の創立者である池田昌富師範と亀井格一師範の合気道の原点は、お二人が合気道を始めた合気道自由が丘道場です。この伝統ある道場は、1961年に多田宏先生がご自身の稽古場として開設された道場です。

池田師範と亀井師範は、この地で多田先生の厳しい指導のもと、同門の深い絆を結びながら修業に励まれました。

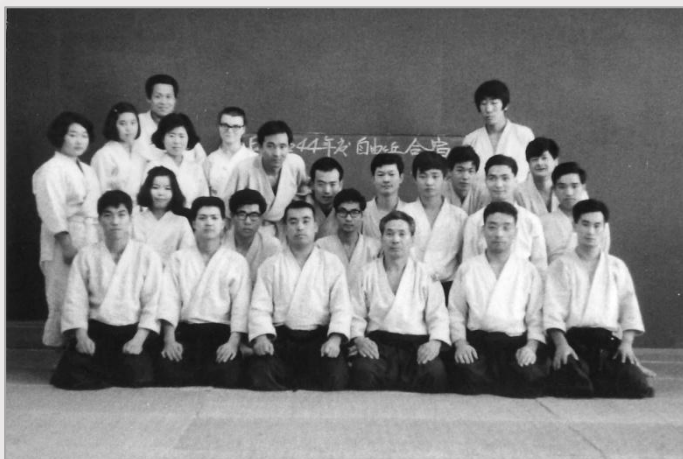
- 1961 年 6 月 亀井格一師範 合気会本部入門
- 1961 年 池田昌富師範 産経道場入門
- 1961 年 10 月 合気道自由が丘道場 創立
- 1961 年 11 月 亀井格一師範 合気道自由が丘道場入門
- 1962 年 6 月 池田昌富師範 合気道自由が丘道場入門
- 1964 年 10 月 多田宏先生 イタリア渡航
- 1965 年 10 月 池田昌富師範 イタリア渡航 5年に渡り合気道の指導と普及に携わる
- 1976 年 5 月 池田昌富師範・亀井格一師範 合気道明心会創立



多田先生と池田師範 1965年当時



たけのうち
竹内道場での亀井師範



自由が丘道場合宿

前列左から 広西光一氏、亀井格一師範、
田村巖先生、樋浦直久師範 佐々木将人先生、
山田博信師範

後列左から六人目(中腰) 鳥海昭兵師範
(合気道明心会の創設時の指導者)

1969 年

臨海合宿

池田昌富師範・浅井勝昭師範・亀井師範 1970 年



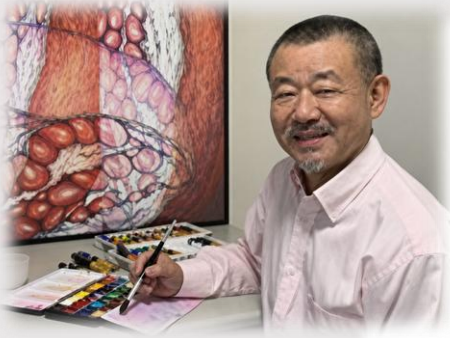
浅井師範と亀井師範



合気会本部道場での集合写真

前列左から細川英機先生 亀井師範、樋浦師範、
田村先生、増田誠寿郎先生
1967 年





アトリエゼロHPより

自由が丘道場での亀井先生、 池田先生との思い出 小堀 秋

- よみうりカルチャー自由が丘合気道教室講師
- 合気会七段

合気道明心会が創設50周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

亀井先生、池田先生が合気道を学ばれた自由が丘道場は、多田宏師範がご自身の稽古場として開設されました。当時、自由が丘道場は東急線・自由が丘駅近くの柔道場・竹内道場をお借りして稽古が行われておりました。月曜から土曜の夕方と日曜の午前中に毎日稽古が行われ、休みは正月のみでした。私も毎日稽古に通い、今年、2026年5月に入門50年の節目を迎えることができました。

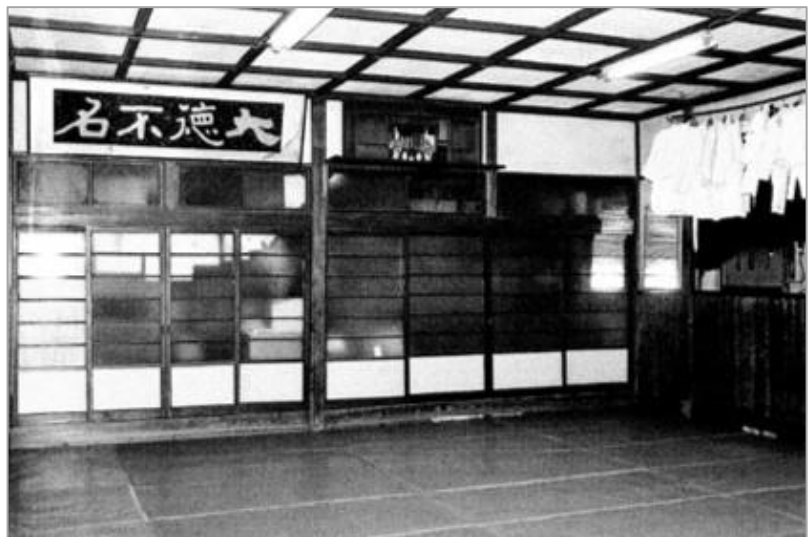
自由が丘道場での亀井先生は、やわらかな技としなやかな身体の使い方がとても印象的でした。しかし、なぜか亀井先生が稽古に来られると、諸先輩たちが日ごろよりも緊張しておられたことを覚えております。亀井先生から礼儀作法などのご指摘を受けることを懸念されていたのかもしれませんが。物事をあまり深く考えることのない性質の私は、白帯の時より亀井先生と親しくさせていただき、たくさんの機会にご指導を受けてきました。その大切な教えの一つとして、多田師範をお見送りする際は、そのお姿が見えなくなるまでお見守りするようにということがあります。弟子としての大切な心構えの多くを教えてくださいました。

私が入門したころ、池田先生はスイス在住でしたが、帰国されたときに道場でご指導を受ける機会がありました。大きなお身体の池田先生からの三教の受けを取らせていただいた際、「動くとき折れますよ」と声掛けされました。皆様もよくお分かりのように、動けるはずはなく、すでに手がしびれておりました。今思い返してみても、それはすごい三教でした。池田先生との大切な思い出には、日欧合同稽古会に参加させていただいた時のことがあります。とても暑い日で、池田先生の厳しいご指導を受けて、へとへとになった稽古会でした。しかし、稽古後の酒宴となると、一転してとてもやさしい池田先生のお顔があり、そのお人柄に引きつけられ、大変にうれしくなったことを今でもよく覚えています。

多田師範のもとで、50年間ずっと稽古を続けてこられたことはもちろんですが、亀井先生、池田先生をはじめ多くの先輩の皆様の教えのもと、合気道の道を歩んでこられたことにも深く感謝しております。これからも多田師範の教えを守り、稽古に励んでまいります。

合気道明心会の今後益々のご発展と皆様のご活躍を心より祈念いたしております。

たけのうち
竹内 道場





緑が丘合気会HPより

自由が丘道場での亀井先生、 池田先生との思い出

岡田 康太郎

- 緑が丘合気会代表
- 合気会七段

合気道明心会が50周年を迎えられます。

弛まぬ稽古が半世紀にわたり続けられたことは、並大抵の努力ではありません。

亀井格一先生をはじめ会員の方に心よりお祝いを申し上げます。

私が自由が丘道場に入門したのは、1971年18歳のときで、そのときから亀井先生にご指導いただきました。年も若く稽古中もふざけてよく怒られていたのを思い出します。怖い先生でしたが指導は熱心で、稽古終了後掃除を終えた後受け身の稽古をします。といっても亀井先生に投げられるだけです。私になんとか受け身が取れるようになったのも、亀井先生のおかげだと思います。

私が初段をとってすぐに、入間市に引っ越されましたが、日曜日に稽古に見えられ、指導されていました。

入門して暫くすると池田昌富先生がイタリアから帰国されました。

ある日、学生生活が楽しく稽古をさぼりがちだったのですが、稽古に行くには少し遅くなり、家に帰ろうとして渋谷を歩いていると、偶然、池田先生にお会いしました。そのまま茶に誘われ、ついて行きますと「もっと真面目に稽古をしなさい」と注意を受けました。それから少し真面目に稽古に行くようになり、現在まで合気道を続けることができました。自由が丘道場で池田先生、亀井先生の教えを受けて大変幸せであったと思います。

岡田先生からご提供いただいた貴重な写真

30年以上前、田辺市で行われた国際合気道大会に参加した際に白浜温泉のホテルに宿泊したときの打上げの写真



左から ○ 亀井師範 ○ 池田師範 ○ 植芝守央道主先生(当時・道場長) ダニエル フェター師範(Daniel Vetter)
坪井威樹月窓寺道場師範 ○ ○ 岡田師範 藤本洋ニイタリア合気会師範 宮本鶴蔵本部道場師範

第2章 合気道明心会創立－上板橋－ 1976 年～1997 年

Establishment of Aikido Meishinkai -Kamiitabashi-

1976年5月15日 池田昌富師範の肝入りで東京都板橋区東新町の柔道場、尚志館田仲道場(後の小野澤道場)に合気道明心会(以下「明心会」といいます。)が創立しました。

同年11月に池田師範がスイスでの指導のため渡欧して、亀井格一師範が後を引き継ぎました。

1977年2月入会された山田陽也師範(合気会七段)は、1989年に大田区にて合気道八起会(以下「八起会」といいます。)を創立されました。山田師範はその後機会あるごとに明心会の稽古に参加され、八起会と明心会の交流は現在も続いています。

また、亀井師範は、自由が丘道場での同門である合気道黎明道場志木合気会(以下「志木合気会」といいます。)代表を務めていた樋浦直久師範(合気会七段)が1995年3月に病床に伏されたため、同年6月より志木合気会の指導もされていました。

当時の有段者には、五段に鳥海昭兵師範、神山敬さん、四段に山田陽也師範、重岡清忠さん、金岡英伸さん、佐藤美知雄さん、三段に工藤崇さん、斎藤正春さん、二段に堀口和利さん、初段に川上豊さん、伊藤進さん、久保田利勝さんがいました。

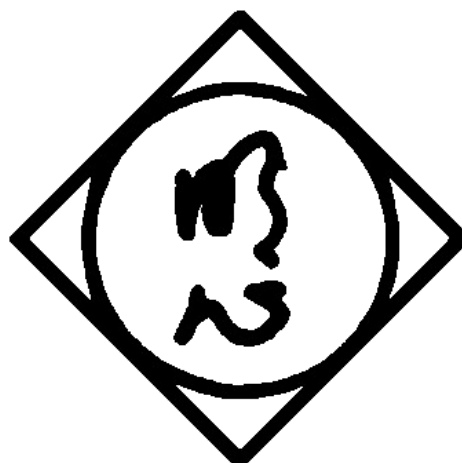
小野澤道場(1988年稽古納め)



後列 中根 佐藤 久保田 斉藤 高橋
前列 ○ 亀井師範 池田師範 鳥海師範 金岡
1988 年 12 月 25 日

明心会は、植芝盛平先生が遺した「三角・丸・四角」の教えである、身体の動かし方と心の持ち方を表す基本のシンボルを図形化しています。

三角は「すべての始まり」と「鋭さ」、丸は「円転」と「和合」、四角は「安定」と「技の完成」を象徴しています。



茨城県阿字ヶ浦合宿

阿字ヶ浦合宿は、1989年、1991年に
二泊三日で行われました。
1992年には場所を土浦に移して行われ
ました。

後列 佐藤 中根 神山 金岡
前列 山田師範 池田師範 亀井師範



おでん屋「お多幸」

当時、上板橋駅近くにあったおでん屋。
稽古後の行きつけの店でした。

入門願書

氏名 中根 浩之 生年月日 昭和 年 月 日生 18才 戸主との続柄 長男
本籍地 板橋区 現住所 板橋区 職業 学生
武道歴(スポーツ歴) 柔道 連絡先電話
私は今回御道場に入門して合気道の修行を致します。就いては私の一身上に係わ
ることは一切保証人が引受けます。
昭和 年 月 日
住所 板橋区
氏名 氏名 氏名
保証人 尚志 館田 仲道場
合気道明心会 御中
電話

この頃の入門願書



第35回全日本合気道演武大会 初出場

山田博信師範と共に演武。
以降、毎年参加しています。
日本武道館 1997年5月24日



寄稿者 近影

明心会創立について

鳥海 昭兵

- 合気道明心会設立メンバー
- 合気会六段

高校を卒業して就職した私は、その年、19歳のときに合気道の新橋道場に入門しました。その頃合気道は、植芝盛平という武道家の始めた物凄い武道だということで有名でした。浜松町の職場から新橋駅への道の途中の柔道場(新橋道場)でたまたま合気道の稽古を見て、「これが有名な合気道か」と思い、入門しました。そんな折、何かのきっかけで自由が丘に多田宏先生の道場があると知り、それで自由が丘道場に入門しました。

当時の自由が丘道場は多田先生が既に海外に指導に行っておられたため、田村巖先生と佐々木将人先生が指導にあたられていました。時々、千葉和雄先生もおみえになりました。亀井格一先生や細川英機先生、山田博信先生といった高段者の方々も交代で指導にあたられていました。亀井先生はとにかく真面目な先生でした。

私が33歳になった1976年、池田昌富先生から「道場を開くので一緒にやりませんか」とお誘いを受けました。それまで池田先生とお話する機会はありませんでしたが、池田先生は凄い方だと自由が丘道場の稽古仲間達から噂で聞いていたので、お受けすることにしました。

新たに発足する道場は、池田先生の伝手で上板橋にある柔道場の尚志館田仲道場をさせていただけることになりました。池田先生、亀井先生と私の三人で、所有者である田仲昭雄先生に挨拶に行ったことを覚えています。

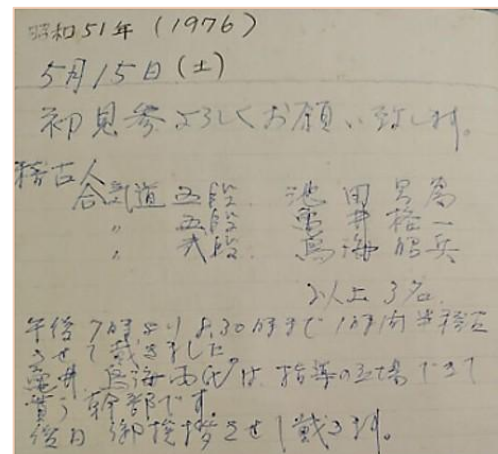
発足当初の明心会は、水曜日の指導が私で、土曜・日曜の指導は亀井先生が担当されました。池田先生は水曜日にとときどき参加してくださいました。入門者はまだ少なく、池田先生がいらしたときも一人稽古をすることが多かったです。

池田先生の指導については、論理的に詳しく説明してくださったことが印象に残っています。

以上が私の知っている明心会発足当初の様子です。

明心会が50年の長きに渡って活動してこられたのは、ひとえに亀井先生の情熱の賜物です。

これからも明心会が発展していくことを願ってやみません。



初稽古メモ(池田師範直筆) 1976年5月15日



娘 榛那さんが初めて黒帯を締めた日
入間市武道館 2025 年 3 月 30 日

池田昌富先生からの伝言 中根 浩之

- 合気道明心会 1988 年 3 月 5 日入会
- 合気会四段

今から、私が池田昌富先生から直接聞いたお話を皆様にご紹介したいと思います。

私は1988年に合気道明心会に入門しました。その頃、池田先生は合気会師範としてスイスで教えておられ、日本には年に1、2回帰っていらっしゃいました。

私は、池田先生が日本に戻られたときに池田先生に教わりました。池田先生の合気道は、動きも技の解説も非常に論理的であったことが印象に残っています。

上板橋の道場の近くにおいしいおでん屋さんがあって、稽古の後によくみんなで行きました。

このお話は、このおでん屋さんで聞いたと思います。池田先生が私にこうおっしゃいました。「どんなに素晴らしい先生も、どんなに素晴らしい技も、弟子が真似できなかつたらこの世に存在しなかったに等しい。」

私はその言葉の意味が分からず、きょんとしていました。そんな私を見て、池田先生は続けてその言葉の意味を説明してくださいました。「その先生が本当に素晴らしいか否かを証明するには、その先生が生きていれば、その先生が技を実際に見せればいい。しかし、その先生が死んだ後は、その先生が素晴らしい先生だったことをどう証明するのか。それは弟子がやって見せるしかない。もし、弟子がその先生の技を再現できないならば、その先生が本当に素晴らしかったのかどうか永遠に証明できない。」池田先生はそうおっしゃいました。池田先生の話聞いて、そのときは理解したつもりでした。

しかし、池田先生が亡くなられた今、この話を思い返すと、このお話は実は別の意味を持っていたことに気づかされます。「中根君、私が死んだら君は証明してくれるかな」

私はまだまだ実力不足ですが、いつの日か池田先生が素晴らしい先生であったことを証明したい。そういう思いで稽古を続けております。



入間市武道館
2023 年 4 月 30 日

第3章 池田昌富師範 欧州での活動 1976 年～2006 年

Activities of Masatomi Ikeda-shihan in Europe

1976年、スイス合気道文化協会(ACSA)の要請を受け渡欧され、合気会本部の派遣指導員としてスイスに着任されました。その後25年以上にわたって欧州の地で合気道の指導と普及の仕事をするようになります。

1986年、合気道池田道場チューリッヒを設立され、週6回の指導に加えて、週に2、3回のペースでスイス国内の各地の ACSA 所属道場を休むことなく巡回指導をされました。同時に、スイス国内はもとより、国際的な講習会を主催し、近隣諸国で活動する合気道家との交友を持たれました。スイスのチューリッヒで毎年開催される ACSA ウィンターステージは、ドイツ合気会 浅井勝昭師範、イタリア合気会 細川英機師範と数回にわたり主催をされています。多田宏先生とは、スイスのセニユレジェでの夏季講習会、パスクアーレ・アイエロ (Pasquale Aiello) 師範とは毎年晩夏から初秋にかけてイタリアのプライアーノでの講習会を開催していました。

1995年からはチェコ共和国の合気会、1996年からはスロバキア合気道協会、1997年からはセルビアのユーゴスラビア合気道連盟にも携わりました。1996年には 磯山博師範 (合気会九段)とともに国際合気道連盟の技術顧問に就任され、1998年にはトルコ合気道協会の技術顧問をされています。同時にクロアチア、ハンガリー、ロシア、ポーランドなどの国々で定期的に講習会を開催されています。その間、1996年には合気会七段を認可されました。

池田師範の活動の全盛期には、ACSA 創立30周年を記念して、1999年6月5日から7日までスイス バーゼルで国際的な大規模講習会を開催され、この講習会には、多くのヨーロッパ諸国から集まった師範が稽古や演武をされています。

池田先生は合気道のほか、柔道(四段)、剣術、相撲にも通じた非常に器量の広い武道家でした。しかし、2002年に病に倒れ、惜しまれつつも指導の一線から退いて2006年、日本へ帰国しました。



合気道池田道場チューリッヒ訪問 2019 年 9 月 11 日



第14回 国際合気道大会 講師
国立オリンピック記念青少年総合センター
2024年10月2日

池田昌富先生との スイスでの思い出

菅原 美喜子

- 合気道奥州道場 道場長
- 合気会七段

私が1995年にスイスへ渡ったとき、池田昌富先生は突然やって来た私を温かく迎えてくださいました。池田先生は私にとって兄弟子にあたる存在でしたが、常に親身になって相談にのってくださり、折に触れて励ましの言葉をかけてくださいました。

1996年、スイス東部のサン・モリッツで合気道道場の開設を準備していた頃、近隣の私立学校で使用されなくなった柔道畳約50畳が売りに出されていることを知りました。そこで、その購入について池田先生にご相談したところ、快くご支援くださり、無事に購入することができました。この畳のおかげで、私はサン・モリッツの小学校の体育館を借りて稽古を行うことができるようになり、その後、サン・モリッツ市営施設内に小規模な道場が設けられた際にも、この畳は移設され、現在に至るまで大切に使用されています。

もう一つ忘れられない思い出があります。1995年8月、私は池田先生のチェコでの講習会に同行しました。当時のチェコでは合気道が急速に広まりつつあり、講習会には200名ほどが集まっていたと思います。そのほとんどが白帯で、会場には新しい武道を学ぼうとする熱気が満ちていました。

講習の中で、私は池田先生の受けを務める機会をいただき、先生は実に楽しそうに技をかけられ、私はポンポンと気持ちよく投げられました。先生の技の伸びやかさ、柔らかさ、そして力強さを全身で感じたことを、今でも鮮明に覚えています。終始楽しそうな表情で指導される先生のお姿が、とても印象的でした。

そして十年間のスイス生活を終えて日本へ帰国した後も、私は毎年、スイスをはじめチェコ、ドイツ、フランスなどでの講習会へ招かれ、合気道を通じて多くの方々とのご縁をいただいております。そのご縁の始まりをたどれば、池田先生との出会いに行き着きます。私がスイスで稽古を続けることができたのも、帰国後もヨーロッパの皆様との交流を続けることができているのも、池田先生のおかげであり、心から感謝しております。

今でもサン・モリッツでの道場開設当時のことや、チェコで気持ちよく投げられた講習会の光景を思い出します。その思い出は、私にとってかけがえのない宝物です。

池田昌富先生から
いただいたご恩と学び
に深く感謝するととも
に、先生のご冥福を心
よりお祈り申し上げます。



2025年プラハ講習会

菅原師範の隣に座っている方々が、1995年チェコでの池田師範の講習会に参加した、当時、白帯だった若者たちです。



入間市武道館 2019年12月22日

池田昌富先生の思い出

ハンスリュディ ネフ Hansruedi Nef

- スイス合気会前会長
- 合気道池田道場チューリッヒ協会元会長
- 合気会六段

私が池田先生を初めてお見かけした時のことを、今でもよく覚えています。1977年、スイスのヘリザウ合気道クラブのウィリー・フリシュクネヒト氏の道場でのことでした。道場は、かつて牛舎として使われていた納屋の二階にありました。

その日は、スイス合気会 ACSA の新しい技術主任として池田先生が指導に来られることになっており、私たちは皆とても楽しみに待っていました。先生が階段を上がって来られた時、まず目に入ったのは、立派な頭と豊かな髪でした。経験の浅かった当時の私の目には、池田先生は、それまでお会いしたことのあった他の日本人の先生方(藤本洋二先生と田村信喜先生)とはずいぶん違って見えました。

当時私は17歳で、合気道を始めてまだ二年ほどで、若かった私たちは、池田先生に大きな衝撃を受けました。私は心の中で先生の合気道を「パワー合気道」と呼んでいました。先生は実にさまざまな投げで私たちを道場中に飛ばしました。しかしその技は非常に力強い一方で、常に制御されており、危険さはまったくなく、どれほど速く強く打ち込んでも、怪我をする不安を感じたことは一度もありませんでした。

先生の技は、まるでスイス時計のように正確で、足、身体、手をどのように動かせば効果的な合気道になるのかを、私たちは先生から学びました。私にとって、それは合気道の新しい次元が開かれた瞬間でした。

当初、池田先生はスイスにご自身の道場を持っておらず、平日は各地の道場を巡って指導されていました。幸い私の住む地域には複数の道場があったため、私は毎月何度も先生の稽古に参加することができました。

1986年、先生はチューリッヒにご自身の道場を開設され、私も仕事の関係でチューリッヒへ移ったため、1988年以降は定期的に先生のもとで稽古をすることができました。スイス全国から多くの人々が池田先生のもとへ集まり、先生のダイナミックな指導と明快な技を学びました。本当にスイスの合気道にとって黄金時代でした。

しかし、残念ながら、先生は病を患われ、2002年末をもって道場での指導およびスイス合気会 ACSA の技術主任としての活動を退かれました。それは私たちにとって大変悲しい出来事でしたが、それでも多くの門下生は、先生の教えを基礎として合気道を続けたいと願いました。そのため2003年、私たちは「合気道池田道場チューリッヒ協会」を設立し、この会は現在も存続しており、今なお池田先生の精神に基づいて合気道を稽古しています。

池田先生は、スイスにおける合気道の発展に極めて大きな足跡を残されました。現在でもスイス合気会 ACSA の多くの道場では、先生の指導体系および審査制度が用いられています。また先生は東ヨーロッパの複数の国々でも指導されており、同じ基盤のもとで合気道を学んだ方々と出会う機会が今でもあります。それは私にとって大きな喜びです。

池田先生が築かれたものは、今なお生き続けています。



入間市武道館 2019年12月22日

Erinnerungen an Masatomi Ikeda-sensei

Ich kann mich noch gut daran erinnern, als ich Ikeda Sensei zum ersten Mal sah. Das war 1977 im Dojo von Willi Frischknecht vom Aikido Club Herisau. Das Dojo befand sich in einer ehemaligen Scheune, oberhalb des Stalls, in dem früher Kühe untergebracht waren.

Wir wussten, dass an diesem Tag Ikeda Sensei als Technischer Leiter von Swiss Aikikai ACSA das Training leiten würde. Wir warteten alle sehr gespannt. Als er die Treppe hinaufkam, sah ich zuerst nur einen grossen Kopf mit vielen Haaren. Ikeda Sensei sah anders aus als die beiden anderen Japaner, die ich zuvor gesehen hatte (Fujimoto Sensei und Tamura Sensei). Er war grösser und wirkte deutlich kräftiger. „Ah, Japaner können auch so aussehen“, dachte ich.

Ich war damals 17 Jahre alt und übte seit zwei Jahren Aikido. Wir jungen Leute waren sehr beeindruckt von Ikeda Sensei. In meinem Kopf nannte ich sein Aikido „Power-Aikido“. Er konnte uns mit den unterschiedlichsten Würfen durch das Dojo werfen. Es war sehr kraftvoll, aber immer kontrolliert und nie gefährlich. Man musste bei ihm nie Angst haben, dass einem etwas passieren oder man sich verletzen könnte - egal, wie schnell und kräftig man ihn angriff.

Er war technisch präzise, wie eine Schweizer Uhr. Wir lernten von ihm, wie man Füsse, Körper und Hände bewegen muss, um effektives Aikido auszuführen. Für mich öffnete sich eine neue Dimension des Aikido.

Ikeda Sensei hatte zu Beginn in der Schweiz kein eigenes Dojo. Er reiste während der Woche von Dojo zu Dojo und gab dort Training. Glücklicherweise gab es in meiner Region mehrere Dojos, sodass ich mehrmals im Monat bei ihm trainieren konnte.

1986 eröffnete er in Zürich sein eigenes Dojo. Da ich beruflich bedingt nach Zürich zog, konnte ich ab 1988 regelmässig bei ihm trainieren. Das war eine sehr gute Zeit. Es kamen Leute aus der ganzen Schweiz, um bei Ikeda Sensei zu trainieren und von ihm zu lernen. Wir alle schätzten seinen dynamischen Unterricht und die klaren Techniken.

Leider wurde er krank und musste Ende 2002 seine Tätigkeit als Lehrer in seinem Dojo sowie als Technischer Leiter von Swiss Aikikai ACSA aufgeben. Das war sehr traurig. Die meisten seiner Schüler wollten weiterhin Aikido auf der Grundlage seines Unterrichts trainieren. Deshalb gründeten wir 2003 den Verein Aikido Ikeda Dojo Zürich. Der Verein besteht bis heute, und wir üben Aikido weiterhin im Sinne von Ikeda Sensei.

Ikeda Sensei hat das Aikido in der Schweiz ganz wesentlich geprägt. Die meisten Dojos von Swiss Aikikai ACSA nutzen weiterhin sein Unterrichts- und Prüfungssystem. Er war zudem in mehreren osteuropäischen Ländern tätig. Dadurch treffen wir immer wieder auf Menschen, die Aikido auf der gleichen Grundlage wie wir ausüben. Das zu erleben, macht mir grosse Freude.

Das, was Ikeda Sensei geschaffen hat, besteht weiter.



入間市武道館 2018年6月3日

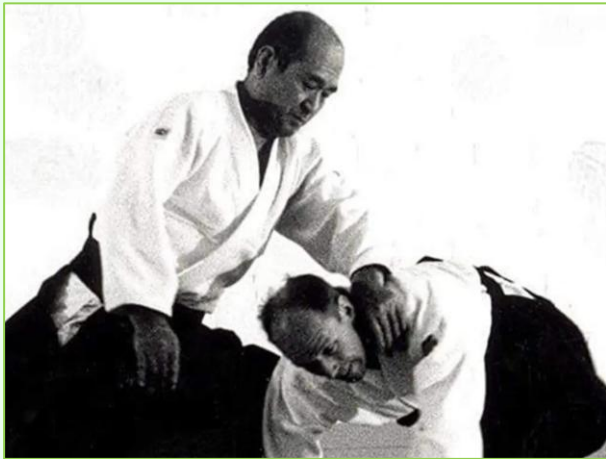
池田昌富師範写真集



1994 年 撮影



左からスイス合気道の基礎を築いた
アントニオ・シンドレウ師範 (Antonio Sindrea)
池田師範
ルネ・フリッシュクネヒト師範 (René Frischknecht)



1995 年 チェコ、スロバキアでの専門誌『Aikido』から





第8回国際合気道大会

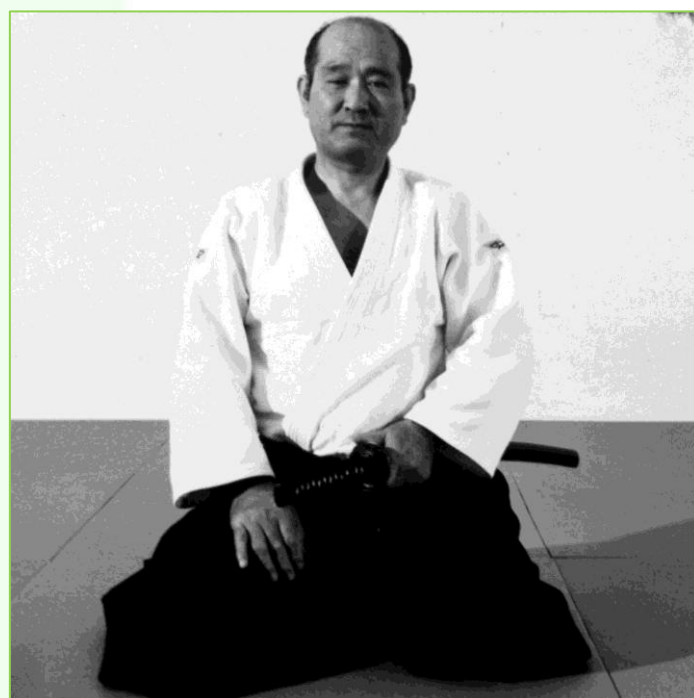
池田師範は2000年9月に代々木で
開催された第8回国際合気道大会に
おいてご指導をされました。

今でもスロバキア、チェコでのセミナーでは、池田師範の写真が掲げられています。

スロバキア合気道協会
チェコ オストラバでの合気道セミナー
2026年2月7日～8日



合気道チェコ共和国
チェコ メルニクでの合気道セミナー
2026年3月28日～29日



第4章 入間市での活動開始

1998 年～2006 年

Started activities in Iruma City

1998年10月2日、明心会は、会員の野村良男氏、吉野明男氏の協力を得て、活動の場を上板橋から埼玉県入間市に移転しました。

移転先となった入間市は、中世に武蔵武士団が活躍した歴史があり、日本三大銘茶「狭山茶」の主産地としても知られる街です。広大な茶畑が広がり、歴史と自然、そして都市機能が美しく調和しています。稽古場所の入間市武道館は入間川河川の黒須さくら広場に隣接した、自然豊かな環境です。

折しも、亀井格一師範は、1995年より引継いだ志木合氣会と明心会との両道場の指導にお忙しい時期でもありました。



2001 年 10 月 22 日

後列 広瀬 神山 佐藤 三輪師範
前列 亀井師範 山田師範 鳥海師範

自由が丘道場40周年記念

2001年

後列 ○ ○ ○ 吉野
前列 野村 神山 亀井師範 鳥海師範 佐藤





寄稿者近影

入間市での稽古開始

野村 良男

- 合気道明心会 1998年10月12日入会
- 合気会三段

今年(2026年)4月12日に松田裕一さんより吉野明男さんとともに入間市武道館に呼び出され、50周年記念誌の寄稿を依頼されました。然るに30年も前のことなので、強く固辞しましたが、吉野さんと当時の話をしているうちに、松田さんより「それを書いていただければいいのです!!」と強くせがまれ、ここに筆を執る次第となってしまいました。

私は、今年で74歳になりますが、20歳の頃、入間幸武館道場にて合気道の稽古をしていました。当時、亀井先生も上板橋でご自身の道場である合気道明心会で稽古をつけておられる傍ら、入間幸武館道場にも特別にご指導に見えられていました。技の説明を丁寧にいただき、大変勉強になったことを思い出します。

しばらく、合気道から離れていた時期がありましたが、ある日、偶然ですが、私の近所で亀井先生をお見掛けしたので、お声をかけたところ、亀井先生がご近所に越してこられたとのこと。入間市で合気道の稽古を始めたいが、よい場所はないかとのことでしたので、すぐに入間市武道館に連絡をして、稽古場所を確保する手配をしたことを覚えています。

稽古場所が決まり、私と先生の二人でスタートをしましたが、すぐに入間幸武館道場で共に汗を流した仲間で、合気道を休止されていた吉野明男さんに声をかけて、3人での稽古が始まりました。

入間市にて稽古を始めてしばらくは、会員も集まらず、少人数での活動でしたが、松田さんより現在は大人15名、子ども10名であり、ヨーロッパからも稽古に参加されることも珍しいことではないと伺い、感慨深いものがあります。



当時のメンバー 野村、鳥海師範、佐藤



花見 黒須さくら広場 2019年4月7日

入間市武道館で稽古を始めた頃

吉野 明男

- 合気道明心会 1998年10月1日入会
- 合気会五段

始めに、何せ28年前なので記憶が曖昧で不確かなことがあると思いますがご容赦をお願いします。

入間幸武館道場での稽古をやめてからしばらく経って、以前同門だった野村良男さんからの電話で、入間市武道館で亀井先生が合気道を始めるので一緒にやらないかとお誘いがありました。亀井先生と聞いて入間幸武館道場での丁寧なご指導に感銘を受けたことを思い出し、長いブランクの後で迷いましたが入門しました。

初めての稽古は、当時二段でしたが、稽古不足で一週間筋肉痛で苦しんだのが良い思い出です。

稽古中の事を思い起こせば、入間幸武館道場時代ご指導を受けていましたが、改めて始めてみると、亀井先生がさらに進化されていてご指導も変化されていて、びっくりした覚えがあります。

また、ご指導を受けていたとき、言葉では分かるのですが、とてもできていると思えず、たまたま「できません」と言ってしまいました。すると亀井先生から『最初からできないと思ったら、できるものもできなくなってしまう、まずは「できる、できている」と思い、やってほしい』と仰いました。言われた直後は「そう言われても…」と思いましたが、本業の仕事で上司から未経験の仕事を命令されました。できないと言って断ることもできましたが、自分なりの勉強やアドバイスを受けながらうまく完了できました。これも先生の教えを生かしたかと思っています。

しばらくの間、ご多分に漏れず、野村さんも同じだと思いますが、入門者がほとんど無く亀井先生とのマンツーマン稽古が長く続きました。

亀井先生より、会員の募集のために駅などにポスターを掲示されたとの話を聞き、お手伝いできないかと思い、スーパー、コンビニなどにポスター掲示を依頼しましたが、ことごとく拒否されたりして実施できませんでした。入間市ホームページにスポーツ団体として登録して、掲載したり、入間ケーブルテレビなどに会員募集用の明心会のホームページを作成したりしてみましたが、なかなか効果がでないままで、がっかりした思いをしていました。

入門者が入り、少し経っては辞めて行く出入りが多い時期もありました。合気道について、少し誤解があり入門しても期待と違うと思われてしまい、辞めて行く方が何人かおられました。当時はこの地域では合気道の知名度、理解が十分でないように感じていました。

やはり、地道でも長く続けることが大切だと思っているこの頃です。



合気道黎明道場志木合気会 HP より

志木合気会における 亀井先生との思い出

三輪 明

- 合気道黎明道場志木合気会代表
- 埼玉県合気道連盟相談役(元理事長)
- 合気会七段

志木合気会は1988年2月1日に富士見市みずほ台にあった合気道黎明道場の活動を更に広めるため隣の志木市に創設されました。私は1990年6月に志木合気会へ入会しました。樋浦直久先生はここを拠点に、当時まだ合気道があまり知られていなかったため、ゼロからの基盤作りに貢献され、志木ケーブルテレビでも紹介されました。

1995年3月、樋浦先生は病気で入院されました。昇級昇段審査を控えた時期でした。困り果てていた時に、多田宏先生の自由が丘道場の同門で、遠戚でもある亀井格一先生に駆けつけていただき、ご指導をお願いしました。(この時点で、一般部約20名、少年部5名ほど)

当初は、技の細かい点で違いがあり、少し戸惑いもありましたが約10年間ご指導を頂き、当会の黎明期から道場を支えて頂きました。

亀井先生は二段の審査規定で提出が要請されている感想文のテーマとして「謙虚さについて」を提示されました。今もこのテーマを続けています。日頃、謙虚さについてはあまり気にしませんが、真剣に考える機会となりました。合気道を稽古する場だけでなく日常生活でも大変重要で仕事の上でも、様々な面で役に立ちます。

亀井先生ご自身も合気道において、また日常生活でも、それを具現されていると思います。

遅くなりましたが、合気道明心会50周年おめでとうございます！

これからも更なるご発展を祈念致します。



志木合気会15周年記念稽古
志木市民体育館 2005 月 22 日

第42回全日本合気道演武大会

志木合気会集合写真

日本武道館 2004 年 5 月 22 日



第5章 池田昌富師範の帰国

2006 年～2019 年

Masatomi Ikeda-shihan returns to Japan

2006年10月、25年以上にわたる欧州での合気道の指導、普及から池田昌富師範が帰国され、明心会の稽古には亀井格一師範と池田師範のお二人の姿がありました。

池田師範の帰国により欧州から多くの合気道家が明心会を訪ねられ、欧州の合気道家との交流が始まりました。

亀井師範による志木合気会での指導も10年を超え、同会会員が明心会の稽古に参加することが、日常の風景となりました。志木合気会でのご指導は、2007年より樋浦直久師範の門人の三輪明師範にその後をお任せになり、明心会での指導に専念することになりましたが、志木合気会会員の明心会稽古の参加は続き、より交流が深化しました。

また2010年代は、現在の明心会の中心メンバーが入会した時期となります。明心会において中心的な役割を担い、会の発展に大きく貢献する会員となります。



亀井師範と池田師範
入間市武道館

2007年 集合写真

志木合気会、八起会会員も日常的に稽古に参加していました。
入間市武道館
2007年11月11日



後列 佐々木(志) 松田(志) 宮坂(八) 清水(志) 緒方(志) 野瀬(志) 清水(志) 野村(明)
前列 吉野(明) 鳥海師範(明) 亀井師範 池田師範 ○ 山田師範(八) 佐藤(明)



日欧合同稽古

第11回国際合気道大会に合わせて合同稽古が行われました。これが、その後の大会でも継続して合同稽古が開催される契機となりました。

入間市武道館 2012年9月16日



スイス合気会

エリック グラフ道場長

(Eric Graf)

グラフ道場主宰

フロリアン ファーゼルさん (Florian Fasel)さんとともに明心会を訪ねていただきました。

入間市武道館 2013年9月13日

日本スイス国交150周年記念稽古

エリック・グラフ道場長が20名以上の子供たちを率いて来日され、池田師範の稽古に参加して下さいました。我々会員にとっても合気道を通じて素晴らしい国際交流となり、親交を深める貴重な機会となりました。

入間市武道館 2014年10月9日



スイス合気会

ロジェ ホッホシュトラッサー 道場長
(Roger Hochstrasser)

池田道場オフトリンゲン-ゾーフインゲン
道場長

シルヴィア フープシュミットさん (Silvia
Hubchmid) とともに明心会を訪ねてい
ただきました。

入間市武道館

2015 年 7 月 12 日



スイス合気会 エリック グラフ 道場長 (Eric Graf)

エリック道場長とご家族が稽古に
参加されました。

入間市武道館

2016 年 10 月 15 日



日欧合同稽古

第12回国際合気道大会に合わせて
欧州各国より参加してくださいました。

入間市武道館

2016 年 9 月 25 日



懇親会

魚民 入間市南口駅前店



右側 ミケーレ クアランタ師範 (Michele Quaranta)

亀井師範 池田師範

右側奥 ジョー マクヒュー 道場長 (Joe McHugh)
池田道場アイルランド道場長

左側 ハルカ バラチュコヴァー 道場長
(Halka Baláčková) 池田道場ブラハ道場長
合気道チェコ共和国副会長

ファビエンヌ グフェラー 心理学博士
(Fabienne Gfeller) (スイス)

アネミーク シモンズさん
(Annemiek Simons) (オランダ)

左から 緒方 ヴェロニカ コラーショヴァーさん (Veronika Kolářová) (チェコ)

ミハル コラーシュさん (Michal Kolár) (チェコ) 松田 佐々木 斉藤 マリオ チェルニー 師範 (Mário Černý) (スロバキア)



スイス合気会 テレサ ウーア六段
(Therese Uhr)

合気道池田道場チューリッヒ
この頃、毎年のようにご来日になり、
稽古にご参加くださっていました。
入間市武道館

合気神社例大祭
2019年4月29日



チェコ合気会 マリエさん、ヴラ
ディスラフさん

池田師範から直接ご指導を仰いだ
経験はなくても、先生方を通じて、
池田師範の合気道を学ばれている
合気道家の方々もお見えになります。

スイス合気会前会長
ハンスリュディ ネフ師範
(Hansruedi Nef)
2018年6月3日
入間市武道館



2019年稽古納め、納会

ネフ師範、八起会 山田師範には2019年の
稽古納め、納会に参加していただきました。
2019年12月22日
納会 魚いち



池田昌富先生の教え

清水 拓市

- 合気道明心会 2013年10月2日入会
- 合気会四段

入間市武道館 2025年12月22日

私は2002年から亀井格一先生に教えを受け、2006年よりスイスから日本に帰国された池田昌富先生からはご逝去される2021年まで教えを受ける幸運に恵まれました。

アメリカ赴任から帰国して秩父に住んでいた私は稽古後に道場からご自宅まで1時間ほど先生を車に乗せてお送りさせていただく機会も多く、道場近くのお蕎麦屋さんで食事をご一緒させていただいたり、車中にて多田先生やイタリアやスイスでの稽古のお話を伺うなど貴重な時間を過ごさせていただきました。

稽古においては、池田先生が指導される際、何度も受けをとらせていただきましたが、その威力は驚くべきもので吹っ飛ばされてしまうため無我夢中で手をとっていた記憶があります。また、池田先生の合気道は理論が確立されており、説明も非常に明快で学ぶ側にとって多くの気づきを早い段階で得られる指導法としても素晴らしいものでありました。これは多田先生を強く尊敬し、その合気道を基盤としながらも師を超えることを目指し弛まず歩んだ努力と海外での長い指導経験により生まれたものと思います。まさに守破離のごとく、池田先生ご自身の合気道を確立している、そのように感じておりました。

今回、明心会創設50周年を機会として池田先生の教えを振り返り特に印象深いものを紹介させていただきます。「技は最初の一回目で出来なければダメだ」。

ご存じのように合気道は受け、取り4回ずつ交互に技をかけていく稽古法をとります。1回目で上手くいかなくても試行錯誤しながら少しずつ出来ます。しかし、実践の場においてチャンスは1度しかないのです。そう考えたときに、最初の1回がいかに重要であるか、稽古への意識が大きく変わり、稽古が真剣となります。

池田先生の教えは私の中で非常に鮮明に力強く生きていると感じております。それは稽古の場だけでなく、稽古の外、生活の場でも同様です。池田先生、亀井先生の合気道を通し、技だけでなく心も磨き、学んだものを人生に活かす。これからも実践合気道を目指し精進していきたいと思っております。

第60回全日本合気道演武大会
埼玉県合気道連盟推薦者演武出場
日本武道館 2023年5月27日





狭山市武道館 2025 年 2 月 9 日

池田昌富先生の思い出 戸澤 克高

- 合気道明心会 2015 年 10 月 2 日入会
- 合気会四段

創立50周年、誠におめでとうございます。

入会のきっかけは、入間市武道館北側を流れる入間川沿いの遊歩道でした。息子の高校行事で、八王子から烏帽子岩が見える海岸まで歩くイベントに参加することになり、その練習のため、この遊歩道を歩いていました。長い距離を歩く必要があったため、体力づくりに励んでいたことを思い出します。

合気道は学生時代、一人暮らしをしていた下宿近くの道場で習っておりました。しかし、社会人になってからは稽古から離れ、長い年月が過ぎていました。ある日、体力づくりの休憩のため入間市武道館に立ち寄ったところ、ホワイトボードに書かれた「合気道」の文字が目に残りました。懐かしさに惹かれて見学させていただきましたが、稽古されている方の多くが黒帯で、道場全体に張り詰めた空気があり、自分に続けられるだろうかと不安を覚えたことを記憶しております。

実際に稽古へ参加すると、池田先生、亀井先生をはじめ諸先輩方が丁寧にご指導くださり、少しずつ道場の雰囲気にも慣れていきました。腰投げの稽古では、受けが私より大柄な方でしたが、池田先生から、戦争映画に出てくる負傷兵を腰に乗せて従軍する兵士の姿勢が、腰に負担の少ない理想的な姿勢であると教えていただきました。また、入身投げについても、「アミーゴ」という言葉を交えながら、楽しく分かりやすくご指導くださったことが印象に残っております。厳しさの中にも温かさがあり、毎回の稽古が楽しみになっていきました。

相対稽古(二人一組の約束組手形式)の稽古では、池田先生が近づいて来られるだけで、捌きが違うのではないかと緊張感が走ったものです。「袴をとっちゃうぞ」「一回でやりなさい」と声をかけていただいたことも、今では懐かしい思い出です。故人となられた池田先生から「袴をとっちゃうぞ」と言われたいという気持ちを胸に、これからも緊張感を持って一回で技を決める気持ちを忘れず、日々の稽古に励んでまいりたいと考えております。



入間市武道館
2023 年 4 月 30 日

三道場合同稽古

最初の志木合気会、八起会との
合同稽古が行われました。
志木市民体育館
2012年10月20日



亀井格一師範 八段位昇段
合気会平成25年鏡開きにて八段位
を認可されました。
合気会本部道場
2013年1月13日

合気道明心会創立40周年記念祝賀会

ホテル第一イン池袋 レストランピノ 2016年6月18日





亀井格一師範 傘寿祝賀会

亀井師範の傘寿を志木合気会
の皆様と一緒に祝いました。
プリーツドッドアイ
2019年3月11日

花見

明心会の稽古場所である入間市武道館の裏には入間川が流れ、黒須さくら広場が広がっています。
毎年、春には満開の桜の下でお花見を催すことが恒例行事となっています。
黒須さくら広場 2018年4月1日



2019年4月7日

第6章 新たなる活動

2020年～2026年

New activities

2020年からの新型コロナウイルスが本格的流行になり、活動も大きく変化せざるを得ない状況となりました。活動の拠点である入間市武道館が休館となり使用できなくなり、活動を休止することになりました。しかし、2021年になり、徐々に活動が再開された際には、合気会本部、埼玉県合気道連盟、多田塾等の行事に積極的に参加したことはもちろん、明心会として新たな試みが開始されました。

2021年11月には初めて秩父合宿が行われ、毎年秋の恒例行事となりました。

2022年5月に新築された狭山市武道館に活動の場を広げ、現在では、毎週金曜日の稽古場所は狭山市武道館となり、狭山市民の入会も増えています。

2023年6月10日には長い間開催されていなかった三道場合同稽古(八起会、志木合気会)が八起会を主管道場として再開され、毎年開催されることとなります。

2025年明心会行事及び他団体主催行事への参加

日 付	行 事	場 所
1月12日	合気会本部道場鏡開き	合気会本部道場
2月16日	多田塾研修会	合気会本部道場
2月11日	入間市武道祭	入間市武道館
3月23日	埼玉県合気道連盟 少年少女錬成大会 多田塾研修会	和光総合体育館 合気会本部道場
3月29日	里見八幡会40周年記念祝賀会	市川グランドホテル
4月5日	花見	黒須さくら広場
4月12-13日	合気道奥州道場20周年記念行事	水沢武道館
4月20日	多田塾研修会	合気会本部道場
4月29日	合気神社例大祭	合気神社
5月11日	鶴岡八幡宮菖蒲祭奉納演武大会	鶴岡八幡宮武道館
5月24日	第62回全日本合気道演武大会	日本武道館
5月25日	合気道道場トルナヴァ マリオ チェルニー師範一家来場	入間市武道館
6月21日	池田昌富師範墓参	願誓寺
7月5日	合気道道場ヴセティーン ロマン ダニエク道場長一家来場	入間市武道館
7月6日	第43回埼玉県合気道連盟 講習会	狭山市立武道館
7月20日	全日本少年少女武道(合気道)錬成大会	日本武道館
8月29日	昇段審査	狭山市立武道館
9月7日	少年部懇親会	モダンパスタ狭山店
9月6日	三道場合同稽古	志木市民体育館
10月25-26日	秩父合宿	皆野町柔剣道場
10月23日	自由が丘道場 剣杖特別講習会	目黒区立碑文谷体育館
11月9日	植芝守央道主旭日小綬章受章祝賀会	京王プラザホテル
12月10日	合気道道場ピエシュチャニ ルーカシュ ニトリアンスキー道場長来場	入間市武道館
12月27日	稽古納・納会	居酒屋 山路



花見 狭山市稲荷山公園
2024年3月31日

実践合気道

福田 友城

- 合気道明心会 2013年8月7日入会
- 合気会初段

私が明心会の門を叩いて10年余りが経過しました。入門の動機となったのは内田樹先生の文章に触れ、その感性に共感し、それを育んできたのは二人の「師匠」がおられたことを知ったからでした。その一人が合気道の多田宏先生です。

当時、2度目の転職が落ち着き、新しいことを始めたいと考えており、多田先生に近い亀井先生が近所で道場を開かれていると知り、門下生となりました。

しかし、中高生時代も非運動部だった50歳間際の私にとって、フィジカル、メンタル両面で壁は高く、週に3回も稽古日がありながら、平日1日だけしか参加しない状態となりました。それでも心のどこかで「よく判らないがこれ(合気道)は私の人生に有意義な気がする」という曖昧な理由で撤退せず、辛うじて稽古を継続していました。

ここで何か転機があれば劇的なのですが、そうではなく長い時間がかかりましたが、徐々に体が動くようになり、精神的にハリを感じるようになり、稽古に参加する日も増え、ゆっくりではありますが昇級昇段し、現在に至っています。亀井先生と諸先輩方のご指導の賜物であることは勿論ですが、合気道の本質ともいうべき「争わず調和する」ことが徐々に自分に浸透し、人生においても実践したいと感じたからだと思っています。

合気道の稽古には合理性と精神性が必要と感じており、その稽古を通じて、穏やかな時間を過ごせています。しかし、世界に目を向ければ混沌とした状況が広がっています。また還暦が間際な私ですが、仕事や生活においても「迷う」ことが多々あります。最近はその時々判断に「合気道を学んでいる私」であればどうすべきなのかと自分に問いかけていると感じています。

稽古をすればする程、自分ができていないことを感じさせられますが、これからもできるだけ長く稽古に参加し、日常に合気道を活かしていければと考えています。



狭山市立武道館
2025年2月9日



第1回 秩父合宿

この年はじめて秩父合宿が2泊3日で行われました。

小鹿野町宮本の湯

2021年10月29日～31日

後列 小暮 鳥海晴 湯浅 緒方(志) 菊地 信田(月)
前列 中根 篠崎 戸澤 佐々木 亀井師範 清水 鳥海陽 松田



第2回 秩父合宿

小鹿野町宮本の湯

2022年9月23日～25日

第3回 秩父合宿

この年から1泊2日に日程を短縮して行われました。

稽古 秩父市文化体育センター

宿泊 小鹿野町宮本の湯

2023年11月4日～5日



第5回 秩父合宿

合宿には志木合気会、八起会会員の方も参加しています。

稽古 皆野町柔剣道場

宿泊 民宿 きりしま

2025年10月25日～26日

後列 中村(志) 中西(志) 鳥海晴 荒谷(八) 高橋 菊地 関(志) 福田 鳥海陽
前列 篠崎 久保(八) 樋口師範(八) 亀井師範 佐々木 松田 緒方(志)



狭山市立武道館

2022年6月1日に狭山市に武道館が開館して、ここを新たな拠点として、定期的な稽古を行うようになりました。



三道場合同稽古

大田区立貝塚中学校体育館 2026年7月25日



池田先生墓参

池田先生のご命日である6月には、毎年、願誓寺の墓前を訪ねています。その日は追悼稽古や偲ぶ会が執り行われ、池田先生の思い出を語り合いながら、感謝と哀悼の意を捧げています。

願誓寺 2026年6月21日

追悼稽古
入間市武道館
2022年6月26日





合気道を始めた切欠

濱中 孝光

- 合気道明心会 2025 年 12 月 4 日入会
- 中学二年生

僕は去年、合気道を始めた。実は空手も四年前から習っている。合気道と空手は真逆に位置しているようだ。空手は力が無いと出来ない。嫌いなわけではないけれど、好きかと聞かれると悩んでしまう。そう、僕にはあまり力がないのだ。

そんな時、テレビを見ていて合気道に出会った。合気道の小柄な先生が背の高い沢山の大人達を相手に顔色一つ変えずに次々となぎ倒していく。その先生のことがとても格好よく見えた。

今は空手と同時進行で、合気道を楽しく習い、その先生を目標にしている。偶然テレビで見掛けた格好よい合気道が、今も僕の人生を少しずつ変えていっている。



合気道を通してわかったこと

上野 愛来

- 合気道明心会 2025 年 6 月 21 日入会
- 中学一年生

私は合気道を習っています。合気道は空手やボクシングと違って、相手の力を利用して自分の身を守る武道です。また、技だけでなく、礼儀や思いやりも大事にしています。練習の前後には必ず礼をして、相手への感謝の気持ちを忘れないようにしています。私は合気道には人を大切にする心があると思います。

私が合気道を始めた理由は、家族に勧められたからです。最初は「難しそうだな」と思っていて、あまり乗り気ではありませんでした。でも、実際に見学に行くと技がかっこよくて興味を持ちました。体験では上手くできないことばかりでしたが、先生方が教えて下さったおかげで、「もっと上手になりたい」と思い、習い始めました。

合気道を始めてから、私は前よりもあきらめにくくなったと思います。難しい技でも、何度も練習を続けることで少しずつできるようになるからです。また、練習では相手と協力することが多いため、周りをよく見ることも大切だと感じました。学校生活でもあいさつや礼儀を前よりも意識するようになったと思います。

合気道はただ体を動かすだけでなく、心も成長させてくれる武道だと思います。これからも練習を続けて、技だけでなく礼儀も身につけていきたいです。



合気道を一年程やって

鈴木 翔汰郎

- 合気道明心会 2025年3月9日入会
- 小学六年生

私は、合気道を一年程やっています。私は、いろいろな技を知り、学び、出来るようになりました。ただし、まだちゃんと出来ないような技もあるので、そういった技も出来るようになります。

今回は、私が一年程やった感想を書こうと思います。最初に私が今やっていて、覚えるのがむずかしいと思う技を書こうと思います。

「小手返し」という技がむずかしいと思います。大きな理由として、足の動かし方を最後まで覚えるのがまずむずかしいです。手と足と同時に動くのが本当にむずかしいです。とりあえず、他にもむずかしい技がたくさんあるのですが、特に本当にこの技がむずかしいので、これが出来るようになるのが私の当面の目標です。これからもがんばっていきたいです。



合気道を始めて

川本 修平

- 合気道明心会 2025年2月28日入会
- 中学二年生

私は合気道を1年ほど前に始めました。合気道を通して、技以外に様々な事を学びました。礼儀や人間関係などを学びました。始めた頃はよく分からず、先生方に迷惑をたくさんかけました。それでも、すごくいい経験になったと思います。

最初はなかなか始めず、話しかけてもらったら返す、そのぐらいの感じでしたが、優しい先生方、友達に恵まれて、すっかりなじめました。大変な技などもたくさんありますが、それでも頑張りたいと思いました。

合気道を始めて姿勢もよくなり、日常でも役に立っています。

いろいろな人のもと、これからも頑張っていきたいです。



少年部
狭山市武道館
2025年9月1日



入間市武道館 2022年2月2日

明心会50周年寄稿

篠崎 広志

- 合気道明心会 2015年11月20日入会
- 合気会四段

明心会は、多田塾傘下の道場として亀井格一先生のご指導の下、多田宏先生の命の力を高める呼吸法を中心に実践合気道を標榜して人格形成に重きを置き日々の稽古に精進しております。また、技に関しては長年スイスを中心にヨーロッパで合気道を指導されてきた池田昌富先生の技を学ばせていただいております。池田先生の技は力みに頼らず、自然な体捌きと理にかなった動きによって相手と調和するものであり、稽古を重ねるほどにその奥深さを実感しております。

近年の稽古において特に感じるのは、「基本」の大切さです。若い頃は形や技の巧拙に目が向きがちでしたが、年数を重ねるにつれ、正しい姿勢、呼吸、間合い、中心の保ち方といった基本の積み重ねこそが合気道の土台であることを強く感じるようになりました。また、互いを尊重し合いながら稽古に励む道場の雰囲気にも、明心会の長い歴史と伝統が息づいていると感じます。

50年という長い年月の中で、道場を守り育ててこられた亀井先生、先輩方には深く感謝申し上げます。そして、日々熱心にご指導くださる亀井先生に心より御礼申し上げます。現在、私たちがこうして稽古を続けられるのは、多くの方々のご尽力の積み重ねがあってこそです。

これからも明心会の歴史と精神を大切にしながら、一回一回の稽古を大事にし、初心を忘れず精進して参りたいと思います。そして、後輩たちへ良き伝統を受け継いでいけるよう、微力ながら努めていきたいと考えております。



2019年稽古納め
入間市武道館
2019年12月22日

会員名簿 — 明心会創立から現在まで —

No	氏名	入会年月日	No	氏名	入会年月日	No	氏名	入会年月日	No	氏名	入会年月日
1	船越民子	1976年	56	田上恵子	1986年9月20日	111	八木裕貴	1998年11月1日	166	石井秀行	2013年12月25日
2	小林	1976年	57	町田淳	1986年	112	沖井賢一	1998年11月4日	167	五十嵐海翔	2014年4月18日
3	栗原	1976年	58	面川知里	1986年9月27日	113	植原勝彦	1998年11月13日	168	五十嵐翔愛	2014年4月18日
4	村上孝子	1976年7月11日	59	榎本一夫	1986年10月25日	114	斉藤瑞穂	1998年12月2日	169	中根榛那	2015年5月17日
5	村上ひろこ	1976年7月11日	60	吉岡浩二	1986年	115	斉藤真穂	1998年12月2日	170	戸澤克高	2015年10月2日
6	尾形義明	1976年8月1日	61	斉田道夫	1986年11月30日	116	師岡染雄	1999年4月2日	171	亀井健人	2015年10月3日
7	千覚原秀一	1976年	62	五月女昇	1986年12月6日	117	久保美恵子	1999年4月2日	172	篠崎広志	2015年11月20日
8	塩野日繁明	1977年2月16日	63	入澤幸夫	1987年	118	矢口義明	1999年4月28日	173	亀井秀人	2015年11月27日
9	長坂俊二	1977年2月1日	64	作田哲夫	1987年2月1日	119	金澤徹	1999年7月7日	174	山谷大樹	2016年8月3日
10	山田陽也	1977年2月25日	65	レイ・ベルグマン	1987年3月31日	120	村田万麗子	1999年7月16日	175	佐々木卓	2016年9月1日
11	重岡清忠	1977年2月25日	66	小西文夫	1987年4月5日	121	佐藤哲	1999年9月10日	176	河内晴樹	2016年9月11日
12	大塚雅昭	1978年1月7日	67	藤森延俊	1987年7月18日	122	宮本洋子	2000年2月2日	177	山谷仁	2016年11月4日
13	亀井満寿美	1978年10月15日	68	佐藤孔美	1987年9月13日	123	中島浩司	2000年6月28日	178	亀井優果	2017年5月3日
14	富田紀夫	1978年11月1日	69	久保田利勝	1987年12月1日	124	相内友美	2000年10月6日	179	湯浅晃	2017年9月1日
15	高田綾	1978年12月23日	70	亀井明人	1988年1月10日	125	吉村勇佑	2000年10月13日	180	石井大翔	2017年9月1日
16	菅野美也子	1979年2月1日	71	中根浩之	1988年3月5日	126	内山翔太	2001年1月26日	181	湯浅久史	2017年9月22日
17	平野雅美	1979年2月1日	72	白井逸郎	1988年	127	木村達太	2001年1月26日	182	石川景子	2018年3月14日
18	大窪昇	1979年5月1日	73	安田篤史	1988年6月8日	128	内山友里	2001年2月7日	183	菊地久美子	2018年3月24日
19	高田元彦	1979年7月21日	74	中山寿郎	1988年6月1日	129	木村綾乃	2001年2月7日	184	松田裕一	2018年10月1日
20	川上豊	1979年	75	葉山進介	1988年7月3日	130	金崎友希	2001年4月11日	185	田中寿々乃	2019年4月1日
21	柳澤正隆	1979年10月3日	76	梶進	1988年	131	中田賢志	2001年4月13日	186	佐々木淳一	2019年10月1日
22	花香邦夫	1980年3月30日	77	山本等	1988年10月30日	132	皆川健治	2002年4月10日	187	岡田夏紀	2019年11月13日
23	工藤崇	1980年3月30日	78	内田和彦	1990年2月1日	133	関塚千尋	2002年4月10日	188	木暮由佳	2020年2月5日
24	熱海敬	1980年3月30日	79	上野和子	1990年4月1日	134	亀田成美	2002年9月4日	189	藤田陽樹	2020年2月14日
25	大崎晴正	1980年10月11日	80	藤沼晴美	1990年4月7日	135	小林幹司	2002年9月13日	190	藤田優莉	2020年2月14日
26	伊藤勲	1981年	81	清水仁子	1990年4月15日	136	小林啓子	2002年9月13日	191	西澤弥生	2020年7月12日
27	川島一博	1981年5月2日	82	佐藤裕恵	1990年7月1日	137	西澤武	2002年9月25日	192	鳥海陽子	2020年9月6日
28	糸魚川俊輔	1981年6月6日	83	滝上博	1991年	138	高木由紀子	2002年11月13日	193	鳥海晴紀	2020年11月28日
29	洵藤由美子	1981年6月21日	84	永嶋広明	1991年1月30日	139	水村楓	2002年11月20日	194	平原瑠音斗	2021年11月3日
30	惣田修一	1981年9月30日	85	猪俣智一	1991年2月6日	140	大久保竜海	2003年4月23日	195	小林則久	2022年3月23日
31	小島豊	1982年7月2日	86	ロード岡村	1991年2月10日	141	谷内拓弥	2003年8月6日	196	平原彩弥音	2022年4月29日
32	臼井勉	1982年7月2日	87	新保憲輔	1991年6月23日	142	金崎文徳	2003年9月17日	197	高嶋楓	2022年7月1日
33	塩野弘之	1982年8月1日	88	久保忠	1991年11月10日	143	菅野祐介	2003年10月10日	198	副島小鉄	2023年3月3日
34	本橋千恵子	1982年9月18日	89	高橋堅二	1992年1月8日	144	菅野亮太	2003年10月10日	199	清水明香	2023年5月5日
35	塚本美代	1982年9月18日	90	香山孝裕	1992年1月8日	145	茂祐真	2004年6月9日	200	大串咲空	2023年7月30日
36	伊藤進	1982年10月31日	91	北野輝一	1992年2月2日	146	落合健二郎	2004年11月19日	201	大串祐子	2023年7月30日
37	金岡英伸	1982年	92	堀口藍子	1992年	147	下林拓己	2005年2月4日	202	清水美幸	2023年12月15日
38	山田大介	1983年2月6日	93	平野邦子	1992年5月10日	148	嶋貴達也	2005年2月4日	203	清水祐幸	2023年12月15日
39	辻信雄	1983年5月4日	94	作間雄一郎	1994年6月6日	149	北原修	2005年12月23日	204	副島芽愛	2024年5月3日
40	辻京子	1983年5月4日	95	山形知子	1994年6月5日	150	中島昭雄	2006年1月6日	205	橋本來依	2025年2月16日
41	須永勉	1983年7月30日	96	山形夏海	1994年6月5日	151	宮前光	2006年6月11日	206	川本修平	2025年2月28日
42	堀口和利	1983年	97	篠崎覚	1994年11月26日	152	阿部怜子	2006年7月2日	207	川本倫平	2025年2月28日
43	川中昭治	1983年10月5日	98	清水幹雄	1995年2月5日	153	本橋遥香	2006年11月17日	208	鈴木翔太郎	2025年3月9日
44	野瀬輝男	1984年1月14日	99	大槻和成	1995年2月5日	154	江上研吾	2007年1月19日	209	高橋林三郎	2025年4月27日
45	斉藤佳男	1984年	100	添田享秀	1995年2月5日	155	青山太志	2007年10月12日	210	上野愛来	2025年6月21日
46	矢島照雄	1984年	101	池上公康	1995年4月23日	156	浅見侑甫	2008年1月23日	211	本田真啓	2025年7月1日
47	土肥浩平	1984年4月28日	102	池上康太朗	1995年4月23日	157	本橋永康	2008年2月13日	212	長峰秋雄	2025年9月19日
48	山田伸也	1985年10月13日	103	山形陽介	1995年7月1日	158	小林秀多	2008年4月2日	213	本田瑞葵	2025年9月14日
49	砂辺明	1986年4月5日	104	橋詰拓明	1998年5月31日	159	川島悠爾	2008年11月26日	214	濱中孝昌	2025年12月4日
50	斉藤正春	1986年4月12日	105	橋詰拓海	1998年5月31日	160	鈴木雅博	2009年5月3日	215	濱中孝光	2025年12月4日
51	佐藤美知雄	1986年5月25日	106	橋詰和海	1998年5月31日	161	上遠野涼我	2011年9月16日	216	勝又渉	2026年2月6日
52	佐藤浩平	1986年5月25日	107	山村龍司	1998年5月31日	162	上遠野岳斗	2011年9月16日	217	勝又友悠	2026年2月6日
53	高橋興一	1986年6月7日	108	野村良男	1998年10月12日	163	永田あゆみ	2012年8月24日	218	井澤正美	2026年7月10日
54	小泉裕美	1986年5月24日	109	亀井智人	1998年10月2日	164	福田友城	2013年8月7日			
55	伊倉一司	1986年	110	吉野明男	1998年10月1日	165	清水拓市	2013年10月2日			

第7章 欧州と繋がる明心会

Meishinkai, Connecting with Europe

2021年6月21日、池田昌富師範がご逝去されました。長きにわたりスイスを中心に欧州各地で合気道のご指導と普及に尽力されました。

池田師範に繋いでいただいた明心会と欧州の絆は、池田師範ご逝去の後もより深く、強固なものとなり、明心会の発展に寄与しています。現在も、池田師範ゆかりの欧州の多くの合気道家が明心会をご訪問されています。

欧州からお見えになる指導者をはじめとする合気道家との出会いは、我々に多くの気付きと刺激を与えてくれる貴重な時間であり、場でもあります。我々もまた、皆様にそれらを与えられる存在であるよう、改めて精進を心に期す次第です。これらは心に残る素晴らしい体験として会員一同で共有されており、私たちの人生をより豊かなものにしてきています。



6ヵ国の合同稽古

池田師範ゆかりの合気道家が第14回国際合気道大会の開催に合わせて来日。
スイス、スロバキア、セルビア、マケドニア、マルタ それぞれの各国の指導者が参加する特別な稽古となり
改めて池田先生の偉大な功績を実感できる1日となりました。

狭山市立武道館 懇親会 喜代川 2024年9月29日



ヨーロッパ稽古旅

鳥海 陽子

- 合気道明心会 2000年9月6日入会
- 合気会四段

合気道チェコ共和国・Aikido Dojo Melnik セミナーにて
Hall BIOS Melnik 2026年3月29日

2026年3月、明心会のメンバー4人で、かねてからの念願だった中央ヨーロッパを訪れました。中央ヨーロッパには、池田昌富先生がご健在の頃に直接指導を受けたお弟子さんが多くいらっしゃいます。

「いつか行きたいね」と話していた夢は、「来年なら行けるかもしれない」「この時期なら行けそう」「ちょうどその頃、池田先生の愛弟子であるミケーレ クアランタ (Michele Quaranta) 先生のセミナーがある」という流れで、とんとん拍子に実現へ向かいました。

メンバーそれぞれが、ミケーレ先生のお話を伺いたい、そして来日のたびに明心会の稽古に参加してくださるスロバキア・トラナヴァ道場のマリオ チェルニー (Mário Černý) 先生、チェコ・ヴセティーン道場の ロマン ダニェク (Roman Daněk) 先生の道場を訪れたい、という希望を持っていました。

計画段階から マリオ先生とロマン先生はとても親切に相談に乗ってくださり、現地10日間のうち7日間の稽古に加え、オーストリアのウィーン、スロバキアのブラチスラバ、チェコ共和国プラハという3カ国の首都での半日観光、さらに トラナヴァの町や ヴセティーン近郊の観光まで含めた最高のスケジュールを組んでくださいました。現地でも細やかにサポートしていただき、お二人には感謝の気持ちでいっぱいです。

トラナヴァ道場とヴセティーン道場では、通常稽古に加えて特別稽古も開催していただき、池田先生の技についてより深く学ぶことができました。近隣の道場からも多くの合気道家が集まり、温かく歓迎して下さったことがとても嬉しかったです。

チェコ共和国のプラハに移動してからも、現地の皆さんが手厚くサポートしてくださいました。合気道池田道場プラハでは創設25周年の記念稽古に参加し、ミケーレ先生から直接ご指導を受けることができました。また、チェコ・メルニークで開催された2日間のセミナーは、忘れられない貴重な経験となりました。

旅の中でも特に印象深かったのは、ミケーレ先生から2時間以上にわたりお話を伺えたことです。池田先生の最も近くで学ばれていた先生から、「合気道体系要項」について教えていただき、池田先生との思い出話も聞くことができました。

今回の旅は、メンバーそれぞれの希望がすべて叶った、特別な時間となりました。私たちは言葉が得意ではなく挨拶程度しか話せませんでしたが、合気道という共通言語で深くつながることができました。ヨーロッパで池田先生の教えを受けた多くの方々が、その技を大切に守り伝えていること、そして私たちも日本で同じ技を稽古していることに、言葉を超えた喜びと深い感動を覚えしました。

ヨーロッパの友人たちと再び会える日を楽しみに、これからも真摯に稽古を続けていきます。 チェコ共和国 プラハ カレル橋にて 2026年3月27日





第 62 回全日本合気道演武大会
奥様ヘンリエタ ハブリラ(Henrieta Havrila)さんと観覧
日本武道館 2025 年 5 月 24 日

合気道明心会 50周年記念に寄せて

マリオ チェルニー
Mário Černý

- 合気道トルナヴァ代表
- スロバキア合気道協会技術委員／合気会スロバキア
- 合気会六段

合気道明心会の創立50周年記念誌に寄稿する機会を賜り、大変光栄に存じ、また嬉しく思います。この記念すべき節目を心よりお祝い申し上げます。この寄稿は私にとって、池田昌富先生が開いてくださった道を歩み続ける上で、大きな励みであると同時に、大きな責任でもあります。

私が初めて明心会を訪れ、亀井格一師範にお会いしたのは2012年のことでした。それ以来、2025年までの間に合計5回、訪問させていただいています。今年(2026年)は、明心会からも4名の会員がスロバキアとチェコ共和国を訪問し、スロバキア合気道協会／合気会スロバキアの2つの道場、合気道トルナヴァ道場と合気道ヴセティン道場をご来訪されました。私たちの道場の間には、強い絆と深い友情が存在すると感じています。明心会を訪れることは、本当に嬉しく、これからも大きな喜びと感謝の気持ちをもって訪問させていただきます。

ここで、池田先生に敬意と追悼の意を表したいと思います。私たちが今日ここにいて、合気道の稽古が続けられているのは、池田先生のおかげです。池田先生は、比類なき、素晴らしい武道家でした。その技は並外れており、合気道の体現を通じて、数多くの弟子や指導者、合気道家にインスピレーションを与えました。その心と精神は献身的な武道家そのものであり、その胸には合気道と武道への愛と情熱が満ち溢れていました。

こうした要素 一技、心、精神、そして情熱— が、池田先生が遺した独自の指導体系と昇段審査制度を生み出し、私たちは誇りを持って受け継いでいます。私はこの宝を守り、次世代の合気道家に引き継ぐべく、全力を尽くしています。

池田先生のおかげで、私たちは今日ここに集い、友情を育み、互いに敬意を持って合気道を共に修練しています。池田先生は日本とヨーロッパの間に架け橋を築き、それが偉大な師の真の遺産なのです。

同時に、亀井師範ならびに明心会の会員皆様に、心より敬意と感謝の意を表したいと思います。2006年の池田先生の帰国から2021年にご逝去されるまで、池田先生に対して献身的なお世話と支援をしてくださったことに、深く感謝申し上げます。そのことに對し、私は心からの敬意と感謝の念を抱いています。

最後に、池田先生が残してくださった言葉を引用させていただきます。

「合気道は、人を説く武道です。技を磨くだけで無く、心を養って下さい。」

池田正富先生は、永遠に私たちの心の中に生き続けます。

チェコ共和国 チェスケー・ブジェヨビツェ

池田師範が 1995 年から 2001 年まで、
この地でセミナーを開催していました。

右がマリオ チェルニー師範 2001 年夏



50. výročie Aikido Meishinkai Dojo

Je mi veľkou ctou a radosťou, že ste ma požiadali o príspevok k 50. výročiu Aikido Meishinkai Dojo.

Chcel by som vám vyjadriť svoju najúprimnejšiu gratuláciu k tomuto významnému jubileu. Je to skutočne inšpirujúce a zároveň je to pre mňa veľký záväzok pokračovať v ceste, ktorú pre nás pripravil Ikeda Masatomi sensei.

Prvýkrát som navštívil Aikido Meishinkai Dojo a stretol sa s Kamei Tadaichi Shihan v roku 2012. Odvtedy som bol u vás v rokoch 2012 až 2025 celkovo päťkrát. Tento rok (2026) navštívili štyria členovia z Aikido Meishinkai Dojo Slovensko a Čechy, pričom pri tejto príležitosti zavítali aj do Aikido Dojo Trnava a Aikido Dojo Vsetín - dvoch klubov Slovenskej Aikido Asociácie/ Aikikai Slovakia. Cítim, že medzi našimi dojo existuje silné puto a hlboké priateľstvo. Vždy som sa k vám veľmi rád vracal a kedykoľvek opäť prídem s veľkou radosťou. Ďakujem vám.

Chcel by som vzdať úctu a poctu Ikeda Masatomi sensei. Práve vďaka nemu sme tu dnes a môžeme pokračovať v cvičení aikido. Ikeda sensei bol skvelý BUDOKA, jeden z mála svojho druhu. Jeho technika bola mimoriadna a svojím prejavom inšpiroval tisíce žiakov a aikidoka. Jeho myseľ a duch boli mysľou a duchom oddaného bojového umelca, a jeho srdce bolo plné lásky a vášne pre AIKIDO a BUDO.

Tieto prvky - technika, myseľ, duch a srdce - ho viedli k vytvoreniu jedinečného didaktického systému a skúšobného programu, ktorý nám zanechal a ktorý s hrdosťou nasledujeme. Snažím sa zo všetkých síl zachovať tento poklad a odovzdať ho ďalšej generácii.

Vďaka Ikeda sensei sme tu dnes, nadviazali sme priateľstvá a spoločne cvičíme aikido s rešpektom a úctou. Ikeda sensei vybudoval most medzi Japonskom a Európou, čo je skutočný odkaz veľkého majstra.

Zároveň by som chcel vzdať úctu a poctu Kamei Tadaichi Shihan a všetkým členom Aikido Meishinkai Dojo. Chcel by som sa vám veľmi pekne poďakovať za vašu príkladnú starostlivosť a podporu, ktorú ste Ikeda sensei venovali po jeho návrate do Japonska v roku 2006 až do jeho odchodu, kedy nás v roku 2021 navždy opustil. Za to vám patrí moja hlboká úcta a vďaka z celého srdca.

Na záver by som rád citoval slová, ktoré nám zanechal Ikeda Masatomi Shihan:
„Aikido je bojové umenie (BUDO), ktoré objasňuje cestu životom (DO). Prosím, zlepšite nielen svoju techniku, ale aj svoje srdce a myseľ.“

Ikeda Masatomi Sensei zostane navždy v našich srdciach.



合気神社例大祭 2023年4月29日
ルカーシュ ニトリアンスキー先生 (Lukáš Nitriansky)、娘さんと来日



入間市武道館 2025 年 7 月 5 日

合気道明心会 50周年記念に寄せて

ロマン ダニェク Roman Daněk

- 合気道道場ヴセティーン代表
- スロバキア合気道協会／合気会スロバキア
- 合気会五段

1999 年に合気道を始めた時、私はそれが自分の人生にこれほど大きな影響を与えるとは想像もしていませんでした。

池田昌富先生との最初の出会いは、2000 年の夏に開催された夏期講習会でした。当時、私は 17 歳でした。更衣室から稽古場へ向かう途中、体育館の廊下で池田先生とすれ違いました。まだインターネットが普及し始めたばかりの時代で、講習会の案内には先生の写真も掲載されていませんでした。しかし、池田先生のお姿を拝見した瞬間、この方こそが一週間にわたる講習会を指導される先生だと直感しました。その圧倒的な存在感と人間的な魅力に強く心を打たれたことを、今でも鮮明に覚えています。

池田先生がヨーロッパでのご指導を終えられる 2001 年までに、私は幸運にも 4 回 池田先生の講習会に参加する機会をいただきました。その後は池田先生に関する情報を得ることが難しくなりましたが、私の合気道の道は、池田先生の長年の高弟であるミケーレ・クアランタ (Michele Quaranta) 先生のご指導のもとで続いていきました。

やがて池田先生が日本へ戻られ、明心会で稽古を続けておられることを知りました。しかし当時の私には、自分がいつかその道場を訪れることになるとは想像もできませんでした。

2023 年、妻タチアナ・ダニコヴァ (Taťána Daňková) の日本渡航経験とマリオ・チェルニー (Mário Černý) 先生のお力添えのおかげで、私たち家族は初めて明心会を訪問する機会に恵まれました。それは私たちにとって大変光栄なことでした。この場をお借りして、温かく迎えてくださった亀井格一師範に心より感謝申し上げます。また、素晴らしい稽古の機会を与えてくださり、親切に接してくださった明心会の皆様にも深く御礼申し上げます。稽古後に一緒に過ごさせていただいた楽しい時間も、私たちにとってかけがえのない思い出です。娘は今でも、畳の上で日本の子どもたちと遊んだことを嬉しそうに話しています。

2025 年の二度目の訪問では、幼い息子が明心会道場の畳の上で人生最初の一步を踏み出しました。この思い出は、私たち家族にとって一生忘れることのできない特別な宝物です。

その後、明心会の皆様がスロバキアとチェコ共和国を訪問してくださったことを大変嬉しく思いました。私たちは共に充実した一週間を過ごし、ウィーン、ブラチスラヴァ、プラハという三つの首都を訪れながら、稽古だけでなく文化交流も深めることができました。

私にとって特に大きな名誉であったのは、私自身の道場である合気道道場ヴセティーンに皆様をお迎えできたことです。道場生たちは今でもその素晴らしい稽古を懐かしく思い出しています。佐々木淳一先生、松田裕一先生には、私たちの道場で心に残るご指導を賜りましたことを心より感謝申し上げます。お二人から学ばせていただいた技術と精神は、これからも私たちの稽古の大きな支えとなることでしょう。

これまでの合気道人生を振り返ると、その歩みの多くが池田先生の遺された功績と深く結びついていることを実感します。先生の卓越した技術、強い人格、そして合気道への揺るぎない情熱は、多くの合気道家に影響を与え、今なお私たちの中に生き続けています。

また先生は、国境や文化の違いを超え、人と人とを結び付ける架け橋を築いてくださいました。互いに敬意を持って稽古を重ねる中で生まれた友情こそが、池田先生が私たちに残してくださったかけがえのない財産であると感じています。

結びに、明心会道場創立 50 周年を心よりお祝い申し上げます。

皆様がいつまでも健康で幸せに過ごされ、これからも合気道を通じて多くの喜びと学びを得られますことをお祈り申し上げます。そして、合気道がこれからも皆様に人格の成長、末永い友情、そして人生を豊かにする素晴らしい経験をもたらしてくれることを願っております。

また皆様とお会いし、道場同士の友情をさらに深められる日を楽しみにしております。

K 50. výročí založení Aikido Meishinkai

Když jsem v roce 1999 začal cvičit aikido, netušil jsem, jak zásadně to ovlivní můj život. K mému prvnímu setkání s Ikedou Masatomim Senseiem došlo během letního semináře v roce 2000. Bylo mi tehdy teprve sedmnáct let. Když jsem šel z šatny do tělocvičny, potkal jsem ho na chodbě sportovního centra. V té době byl internet ještě v plenkách a leták k semináři neobsahoval fotografii hostujícího instruktora. Přesto jsem v okamžiku, kdy jsem ho uviděl, instinktivně věděl, že to je učitel, který vede tento týdenní seminář. Jeho silná přítomnost a pozoruhodná aura na mě udělaly hluboký dojem. Okamžitě jsem pocítil sílu jeho charakteru a od prvního okamžiku mě fascinoval.

Než pan Ikeda v roce 2001 ukončil svou výuku v Evropě, měl jsem tu čest zúčastnit se čtyř jeho seminářů. Poté bylo stále obtížnější získat o něm nějaké informace a moje cesta v aikidu pokračovala pod vedením jeho dlouholetého žáka, pana Micheleho Quaranty. O několik let později jsme se dozvěděli, že se Ikeda Sensei vrátil do Japonska a cvičí v Meishinkai Dojo. V té době jsem si ani nedokázal představit, že jednoho dne budu mít příležitost toto výjimečné místo navštívit osobně.

Díky mé ženě Taťaně, která již měla zkušenosti s cestováním po Japonsku, díky podpoře a kontaktům pana Maria Černého se naše rodina v roce 2023 poprvé dostala do dojo Meishinkai. Byla to pro nás velká čest. Rád bych vyjádřil svou upřímnou vděčnost Kamei Tadaichi Shihanovi za jeho vřelé přivítání a pohostinnost, stejně jako všem členům Meishinkai Dojo za inspirativní tréninky, přátelskou atmosféru a nádherný čas, který jsme spolu strávili. Naše dcera stále s láskou vzpomíná na hraní si s místními dětmi na tatami.

Při naší druhé návštěvě v roce 2025 udělal náš malý syn své vůbec první krůčky na tatami v dojo Meishinkai. Tuto vzpomínku si bude naše rodina navždy uchovávat v srdci. Jsme velmi vděční za laskavost a velkorysost, které se nám dostalo při obou návštěvách.

Velkou radost nám také udělala pozdější návštěva členů dojo Meishinkai na Slovensku a v České republice. Velmi jsme si užili společný intenzivní tréninkový týden a možnost sdílet naše kultury při návštěvě tří hlavních měst - Vídně, Bratislavy a Prahy.

Jednou z největších poct pro mě bylo přivítat naše japonské přátele v našem dojo, Aikido Dojo Vsetín. Moji žáci a členové dojo dodnes vzpomínají na ty nezapomenutelné tréninky. Rád bych také upřímně poděkoval senseiům Sasaki Junichimu a Matsudovi Yuichimu za jejich inspirativní výuku a za to, že se s námi podělili o své znalosti a ducha.

Když se ohlížím za svou cestou v aikidu, uvědomuji si, jak velká část této cesty byla přímo či nepřímo spjata s odkazem Ikedy Senseie. Jeho technická dokonalost, silná osobnost a oddanost aikidu inspirovaly celé generace praktikujících a dodnes ovlivňují mnohé z nás. Prostřednictvím aikida pomohl vytvořit trvalá přátelství, která překračují hranice i kulturní rozdíly a spojují lidi na základě vzájemného respektu a společného cvičení.

Na závěr bych rád srdečně poblahopřál k 50. výročí dojo Meishinkai. Přejí vám všem pevné zdraví, štěstí a mnoho dalších let smysluplného cvičení aikida. Ať aikidoi nadále přináší osobní růst, celoživotní přátelství a nezapomenutelné zážitky všem, kdo vstoupí na vaše tatami. Těším se na další setkání v budoucnu a na posílení přátelských vazeb mezi našimi dojo.



入間市武道館 2023 年 7 月 7 日 奥様タチアナ・ダニコヴァ (Taťana Daňková) さんと来日
タチアナさんはチェコにおける日本文化発信の重要拠点であるチェコ・日本文化センターの副会長を務めています。

最終章 代表者より

Message from the Representative



明心会 板橋～入間

亀井 格一

1976年5月15日、故池田昌富師範が上板橋の柔道場、尚志館田仲道場(後の小野澤道場)にて合気道明心会を創設します。名前の由来は“三つの心”からでした。

当初、池田師範、鳥海昭兵氏(自由が丘道場)、と私の三人での指導でしたが、急遽、池田師範が10月にスイスに赴任される事になり、預かったつもりがいつ間にか代表になっていました。入門第一号は池田師範の恩師(獨協高校)のお二人でした。自由が丘道場からも応援で神山さん、工藤さん、花香さん、船越さんが来てくれました。稽古にも笹本さん、小野寺さん、大野さん達が参加し盛り上げてくれました。

永らく音信不通の池田師範が1984年、久しぶり帰国され指導されました。以来、毎年の行事となり、講習会、合宿と発展したのは喜ばしい事でした。上板橋での活動は鳥海氏の協力を得て1998年まで続けましたが、小野澤道場の閉鎖に伴い入間市への移設を決断します。

1998年10月2日 吉野明男氏と野村良男氏の協力を得て入間市武道館で明心会を再開します。当初は三人での稽古でしたが良しとしましょう。

2000年9月池田師範の要請を受け、合宿をしました。宿は入間市国民宿舎(現在閉鎖)でした。この合宿には自由が丘道場、志木合気会、八起会、スイス合気会等参加され、なかなかの盛会でした。

その後、幹事体制も整い、ヨーロッパ(スイス、チェコ、スロバキア……)との交流も深まり、少年部も増え、発展途上です。

稽古は呼吸法を重んじ、技においては後の先に陥らず、受けの重要性を説き、実践合気道を掲げ、“朝の誓い”をモットーに丁寧な稽古を心掛けております。

恩師多田先生への感謝の気持ちが益々湧いてくる今日この頃です。

50周年の節目を迎え、会員の熱意で道主先生、多田宏先生をお迎えしての祝賀会、感謝感激であります。ありがとうございました。

最後になりましたが、故池田昌富師範が逝かれて五年になります。感謝を込めて 合掌





入間市武道館 2019年12月22日

謙虚さとは

佐々木 淳一

- 合気道明心会 2019年10月1日入会
- 埼玉県合気道連盟事務局長
- 合気会五段

合気道明心会の昇段審査において、亀井先生が道場生に必ず課される作文の題がある。それが「謙虚さとは」である。

私はこの問いを、単なる作文の課題としてではなく、合気道を学ぶ者としての在り方を問う、非常に重い言葉として受け止めている。技ができるようになったか、稽古を何年続けたか、どの段位に至ったか。それらも大切ではある。しかし亀井先生が私たちに問われているのは、その奥にある「どのような心で道に向き合っているのか」ということなのだと思う。

謙虚さとは、自分を小さく見せることではない。自分を卑下することでも、ただ遠慮深く振る舞うことでもない。私はむしろ、謙虚さとは、自分が積み重ねてきた努力や経験を認めながらも、なお「自分はまだ学びの途中にある」と知る心だと思っている。

稽古を続けていると、少しできるようになった気がする瞬間がある。以前は分からなかったことが、少し分かったように感じることもある。しかし、その瞬間こそ危うい。できたと思ったときに、心は止まる。分かったと思ったときに、身体は硬くなる。私はこれまでの稽古の中で、何度もそのことを思い知らされてきた。

合気道の技は、一人では決して成り立たない。受けを取ってくださる相手がいて、導いてくださる先生がいて、共に稽古する道友がいる。道場という場があり、先人たちが積み重ねてこられた教えがあり、それを守り、伝えてこられた多くの方々の歩みがある。そのすべてがあって、ようやく今の私たちの稽古が成り立っている。そう考えると、私の上達も、私の経験も、私の今の立場も、決して自分一人の力によるものではない。そこに気づいたとき、自然に湧いてくるものが感謝である。

私は、謙虚さと感謝は深く結びついていると思う。謙虚さとは、自分一人で成り立っているのではないと気づく心であり、感謝とは、その気づきが言葉や態度となって表れたものではないだろうか。謙虚であるからこそ、人の支えに気づくことができる。感謝を重ねるからこそ、さらに謙虚であろうとする心が育っていく。

日本語には「おかげさまで」という美しい言葉がある。私はこの言葉の中に、謙虚さと感謝の両方が込められていると感じている。「おかげ」とは、目に見える助けだけではない。見えないところで支えてくださっている人、場、ご縁、時間、そして教え。そのすべてへの畏敬が、この言葉には含まれている。「おかげさまで」と口にするとき、私は自分の成果を自分だけのものとして語ることができなくなる。そこには必ず、支えてくださった方々の存在がある。導いてくださった先生方の姿がある。共に汗を流した仲間の顔がある。そして、今は直接お会いすることのできない先人たちの歩みがある。

合気道明心会が五十周年という大きな節目を迎えることができたのも、まさに「おかげさまで」である。亀井先生をはじめ、諸先生方、先輩方、道友の皆さま、そして道場を支えてくださった多くの方々。その一人ひとりの思いと積み重ねがあって、今日の明心会がある。私自身もまた、その大きな流れの中で学ばせていただいている一人にすぎない。

段位をいただくことは、決して到達点ではない。むしろ、新たな責任の始まりである。だからこそ、昇段審査で「謙虚さとは」と問われる意味は大きい。強くなるほど、深く頭を下げることができるか。教える立場になっても、学ぶ心を失わずにいられるか。自分の技を誇るのではなく、相手と場を尊び、感謝をもって稽古に向き合えるか。

この問いは、昇段審査のときだけのものではない。合気道を続ける限り、そして人として生きていく限り、私自身に投げかけられ続ける問いである。

謙虚さとは、自分の価値を否定することではない。自分を支えてくださっている多くの「おかげ」に気づき、感謝をもって歩み続けることである。合気道明心会五十周年の節目にあたり、私は改めてこの言葉を胸に刻みたい。

おかげさまで、今がある。

感謝を忘れず、私はこれからも謙虚に道を歩みたい。



第 14 回国際合気道大会
国立オリンピック記念青少年総合センター
2024 年 10 月 3 日

編集後記

松田 裕一

- 合気道明心会 2018 年 10 月 1 日入会
- 合気会五段

2026年、合気道明心会が創立50周年を迎えるにあたり、50周年記念式典と祝賀会が企画され、あわせて記念誌発行が決まりました。

私は記念誌編集発行を仰せつかったところ、企業であれば社内報、社史等をはじめとする体系的な既成資料により過去の歴史を紐解くことができますが、当会の歴史について参考となる資料が少なく、編集できるのか不安を抱えておりました。

亀井先生よりお写真を拝借して、写真の出来事と人物を確認することから始めましたが、そこには若き日の亀井先生のお姿が写し出されており、50年という長きにわたり明心会を運営し、会員をご指導されたことに改めて、驚きと尊敬の念を抱いた次第です。

この記念誌は、50年の歴史を綴ることで、亀井先生、池田先生の偉業を次世代に伝えるとともに、歴史を紡いできた先輩に敬意を込めて、読み手が楽しく読めることを意識して編集しました。

幸いにも2026年3月に仲間と共にスロバキアおよびチェコを訪問する機会を得て、池田先生の合気道が彼の地で大切に引き継がれており、池田先生の偉大な功績を肌で実感することができたことは、編集への大きな原動力となりました。

本誌に関して至らない箇所や紙面についての疑義を持たれる点もあるかと存じますが、素人の編集の故、ご容赦いただければ幸いです。

最後になりますが、編集にあたり貴重なご寄稿をいただきました国内外の先生方、明心会の諸先輩方、現役会員の皆様に厚く御礼申し上げます。また、ドイツ語訳をしていただいたファビオ・ギギ博士 (Fabio Gygi)、情報提供にご協力いただきましたスイス合気会のロジェ・ホッホシュトラッサー先生 (Roger Hochstrasser)、合気道チェコ共和国のハルカ・バラチュコヴァ先生 (Halka Baláčková)、リハルド・ヴァッサーバウアー先生 (Richard Wasserbauer) へ、紙面を借りて心より深謝申し上げます。

本誌が、明心会のこれからのさらなる盛栄と、会員の皆様の絆を深める一助となれば、編集者冥利に尽きる思いです。



第 60 回全日本合気道演武大会 日本武道館 2023 年 5 月 27 日

発行者	亀井 格 一
発行元	合氣道明心会
編 集	松 田 裕 一
発行日	2026年9月19日
イラスト	濱 中 孝 昌



表紙イラスト

濱中 孝昌

- 合氣道明心会 2025 年 12 月 4 日入会

このような大役の機会を与えてくださり、誠にありがとうございました。
若かりし亀井先生をイメージして絵に表しました。
指先から全身に伝わる細やかな動きを感じていただければ幸いです。



